午後１時開議

○委員長（出村　ゆかり）

・　開会宣告

・　議題の確認

１　閉会中継続調査事件

○委員長（出村　ゆかり）

・　議題宣告

・　本件については、９月11日開催の委員会において、当委員会の調査事件とすることを確認し、正副で本市の現状等を捕捉できる資料を調製し、課題の整理を行ってまいりたいと確認したところだ。

・　資料については、観光部の協力のもと調製し、お手元に配付しているが、まずは理事者の出席を求め、資料に基づき本市のインバウンドの現状について説明を受けたいと思うが、よろしいか。（異議なし）

・　それでは、理事者の入室を求める。

（観光部　入室）

○観光部長（柳谷　瑞恵）

・　このたび、経済建設常任委員会の調査事件として、「インバウンド拡大に向けた取り組みについて」がテーマとして決定したことを受け、当部から議会事務局へ事前に引き継いでいる資料をもとに、担当課長より函館市のインバウンドの現状について説明させていただく。よろしくお願いする。

○国際観光課長（数寄　朗史）

・　資料説明：「函館市のインバウンドの現状について」（令和元年10月２日調製）

○委員長（出村　ゆかり）

・　お聞きのとおりだが、ただいまの説明について、何かご発言あるか。

○見付　宗弥委員

・　外国人宿泊人数は、パスポートで、国と人数を把握できているということか。（そうだ、の声あり）入込客数の統計もあるが、入込客数の推計上は、外国人はどのような扱いになっているのか。

○観光部長（柳谷　瑞恵）

・　外国人は含まれている。

○見付　宗弥委員

・　この推計によると、道内から来た方、道外から来た方と分かれている。具体的に、外国人の方がどのように含まれているかお聞きする。

○観光部長（柳谷　瑞恵）

・　道外ということだ。

○見付　宗弥委員

・　この調査自体はどのように行っているのか。

○観光部長（柳谷　瑞恵）

・　いま500万人と言われている観光客数は推計であり、交通機関・宿泊施設から頂いたデータを元に

推計している。外国人の宿泊数については、実数として、国ごとにいただいているものだ。

○見付　宗弥委員

・　入込客数はバスだとか鉄道、乗用車等あるが、例えばバスでいらした外国人の方についてバス会社からどのような形で、外国人の方が何パーセントで、とわかるのか。道内・道外別でどのようにわかるのか。

○観光部長（柳谷　瑞恵）

・　基本的に交通機関で道内・道外を分けている。飛行機で来た場合は道外、自家用車で来た場合は道内と捉えている。

○見付　宗弥委員

・　バスで来る方は、津軽海峡を越えてこないので道内、鉄道は青函トンネルを遠ってくる鉄道もあるので道内もあるし、道外もある。乗用車は、道外から来たレンタカーが海を渡ってくるということもある、航空機は道内なら道内、道外からなら道外、そういった形で道内・道外で分けているということか。

○観光部長（柳谷　瑞恵）

・　交通機関で。

○見付　宗弥委員

・　わかった。宿泊数の方は、実数で把握しているとの事だ。直行便が通っている台湾が一番多いが、これからもやはり、方向性としてはアジアがインバウンドのターゲットとして可能性が高いと思うが、今後、インバウンド観光の方向性として、何かあればお聞きしたい。

○観光部長（柳谷　瑞恵）

・　インバウンドの動向については、こういったデータを元に押さえてはいるが、ご覧の通り、台湾からの観光客が少しずつ減ってきているという傾向がある。当市としては、リスク分散の観点からも、様々な国にアプローチをかけていく必要があるのではないかと考えている。今回は、９月に台湾――トップセールスでお邪魔したが、11月にマレーシア・シンガポールという２万人台に乗ってきているところの掘り起こしをかけていきたいと考えている。函館の場合は、観光資源が異国情緒あふれる町並みという形で、どちらかというと西洋の文化の影響を受けた名残があるので、欧米豪というよりは、アジアの方々から人気がある地域柄だと認識している。ただ、今説明したとおり、アドベンチャーツーリズムというような、自然とアクティビティーと異文化交流というようなものを合わせた物が、非常に人気でもあるので、例えば、この地域で申し上げると、恵山のトレッキングと縄文文化の組み合わせは非常にいいのかなと考えている。

○遠山　俊一委員

・　５ページにインバウンド誘致施策とある。ここではトッププロモーションで、台湾、マレーシア、シンガポールがあるが、トッププロモーションに続くプロモーション活動というのは、例えばトッププロモーションで足固めをしておいて、その次に何か政策的にこの団体が行くとか、継続的なプロモーション活動が行われているのか、他にもやっている国があるのかどうか伺う。

○国際観光課長（数寄　朗史）

・　今手元に資料はないが、他にもやっており、主に東アジア・東南アジアの国や地域を中心にこれ

までもトッププロモーションを行ってきている。トッププロモーションに続く誘致活動というところだが、プロモーション自体は、トッププロモーションのほかに、各国で開催されている旅行博や、商談会などに参加したり、あるいは向こうから、海外の旅行会社・メディアを招請したりだとかというのを行っているが、トッププロモーションの時に、メディアを訪問し、是非函館に来てみたいだとかということがあれば、次年度に予算要求をして、招請事業を行ったりしている。

○遠山　俊一委員

・　欧米豪の入り込み数が少なく見受けられるが、これはどのような要因か。

○国際観光課長（数寄　朗史）

・　欧米豪については、国も何年か前から本格的にプロモーションをしており、まさにこれから狙って、たくさん来ていただくというな取り組みをしている市場だと思う。本市も数が非常に少ないが、国全体でも８ページの「国における欧米豪イスラム圏における訪日外客数」、こちらのグラフを見てもらえればわかるが、国においても、東アジア、東南アジアの国が高い割合を占めており、国全体でもまだ来てないという状況なので、本市においても数が取り切れていないというところだと考えている。

○遠山　俊一委員

・　８ページに各国の入り込み数が出ているが、観光はたぶんウイン・ウインの関係でなければならないと思うが、日本からの観光客、函館からの観光客が世界のどういう国にどれだけの人数が訪れているというデータはあるか。

○観光部長（柳谷　瑞恵）

・　委員のご指摘の通り、双方が行き来するというのが、例えばエアラインの存続とかでも非常に有効な状況だとは思うが、今我々としては、主にインバウンドの受け入れる方の施策を重点的に行っていたので、アウトバウンドの部分については、港湾空港部だとかと協力していきながらやっていきたいと考えてる。

○遠山　俊一委員

・　相乗効果というか、「来て来て」と言うばかりではなくて、我々も足を運んで、そしてお互いに交流しながら、「じゃあ函館に来てみてや」という形の観光振興をして行かなければ、インバウンドの拡大を図っていかなければ駄目だと思う。その辺は、両輪で回っていくような政策がこれから必要だと思う。

○観光部長（柳谷　瑞恵）

・　まさに今、始めるタイミングだが、函館市から台湾へ修学旅行に行こうということで、市内の高校の先生たちと一緒に11月に台湾に視察に行ってくる、そういう取り組みを進めている。

○遠山　俊一委員

・　聞き漏らしたが、日本から海外へ行っている国別の人数は把握していないとのことだったか。今手元にデータとしてはないのか。

○観光部長（柳谷　瑞恵）

・　今手元にはないが、データとしてはある。

○山口　勝彦委員

・　７ページにインバウンド向けコト消費発掘・拡大事業とあるが、函館市における観光客の宿泊数が

年々増加しているという中で、結果的に消費が下がっているということに対しての対応は議論されていると思うが、その中で、具体的なものがあればお聞きしたい。

○国際観光課長（数寄　朗史）

・　コト消費発掘・拡大事業だが、まさに今取り組んでいるところであるが、年度内に一定程度商品化し、売れる様な形にしていきたいと考えている。どういったプログラムがいいかというのは、海外の旅行会社などにヒアリングをして、決定していこうと考えている。体験をしていただくと、滞在時間がふえるので、食費・宿泊費などふえるなど、消費効果が数値としてあらわれるように取り組んでいきたい。

○山口　勝彦委員

・　たまたま朝市方面、金森方面、西波止場の界隈いろんな人に話を聞くと、やはり冷えている。クルーズ船の問題、旅客はほとんどパッケージで乗船してるお客さんなので、滞在時間も十二、三時間、長くて十四、五時間だ。朝８時に来て５時に出港するとか、函館の魅力をそういう人たちに伝えるのは難しいと思うが、色々な面で検討していかなければならない。これからターミナルも完成して、そういう人たちから、滞在時間を長くして、少しでも消費につなげられるようなシステム、パッケージをどんどん組み入れていく必要があると思う。消費が下回っているというのは、皆さん肌で感じて、現場でやっている人は大変な思いをしているのは事実だ。前向きに検討してもらえれば。

○富山　悦子委員

・　６のインバウンドの受け入れということで、外国人というのは、何かあった時にどこに電話すればいいのかとか、困ったときにどうすればいいのか、そういう対応が、この内容でいいのか。あとＷｉ－Ｆｉの整備、受け入れ体制というのか、こういうので間に合うのか。何かあったときにどこにいけばいいのか。どこかあるか。

○国際観光課長（数寄　朗史）

・　まず、ＪＲ函館駅に観光案内所があり、かなり多くの外国人観光客にご利用いただいている。あとコンタクトセンターだが、立ち上がった時に市内の宿泊事業者さんに情報提供させていただき、旅なかでも使っていただけるようにということで取り組んではいるが、立ち上がってから何年か経っているので改めて情報提供して参りたいと考えている。Ｗｉ－Ｆｉについてだが、平成27、28年度の２カ年で主要なエリアの方を整備しているが、今年度から委託事業者さんと提携を結び、民間の商業施設の中でも同じサービスが広まるような、それは私どもよりも民間の事業者さん独自の営業努力でそういったようなことが広まるような取り組みもしている。

○富山　悦子委員

・　例えばＪＲなんかも観光案内所も夜通し開いている訳ではない、オールナイトで対応できる様な場所があるのかどうか、今後どうするのか。

○国際観光課長（数寄　朗史）

・　24時間受付の窓口についてだと思うが、現状観光案内所がそういった窓口になっており、それを拡大していくのは、利用状況、その時間帯に来るのかどうか、費用対効果も考えていかなければならない。すぐにできるとは申し上げられない。

○委員長（出村　ゆかり）

・　富山委員に申し上げる。今、現状の説明を観光部から受けているところなので、今後についてはまた別の機会にお願いする。

○荒木　明美委員

・　10ページ目のオーストラリア、ワールドカップにちなんで、今回９月20日と24日のそのルートをＰＲしたとのことだが、実態として何か成果があったのかどうか、Ｗｉ－Ｆｉについてだが、主に屋内の部分については民間の商業施設に任せて、外の部分は市がやっているということか。（そうだ、の声あり）

○国際観光課長（数寄　朗史）

・　平成館さん、宿泊事業者さんで一社だが、実際にオーストラリアのお客様が来ていただいたとのことだ。全体でどのくらい効果があったというのは把握していないが、上期で宿泊客数の調査をするので、12月の初旬とかに結果が出ると思う、そこで数値として出るのかなと思う。

○荒木　明美委員

・　上期というのは、４月からか。（そうだ、の声あり）

○委員長（出村　ゆかり）

・　その他、各委員から何かあるか（なし）

・　理事者には御退室願う。

（理事者退室）

○委員長（出村　ゆかり）

・　本件については、前回の委員会において、「コト消費」の機会提供の状況、欧米やイスラム圏のインバウンド拡大の実施状況などを主なポイントとして調査することを確認したところだ。改めて、具体的な調査すべき項目やポイントなど、各委員から御意見あるか。（なし）

・　それでは、そのように確認する。調査する先進自治体や日程等については、正副で調整のうえ、改めて、各委員と協議してまいりたいと考えるが、いかがか。

○遠山　俊一委員

・　インバウンドとアウトバウンドは両輪であって、我々がインバウンドを求めるのであれば、相手国に行って、我々の文化を伝えるだとか、向こうの文化を学ぶだとか、そういう方法が有効ではないかと考える。トッププロモーションを後押しする意味でも、海外にいけないものか。

○委員長（出村　ゆかり）

・　他にご発言あるか。（なし）

２　その他

○委員長（出村　ゆかり）

・　その他、各委員から何かあるか（なし）

・　散会宣告

午後１時３９分散会